

中尾遺跡



中世墓人骨出土状況



安来市教育委員会

中尾遺跡概要

中尾遺跡は、安来地区、赤江地区、能義地区の三区にまたがる城山山系の東側、月坂町字中尾614-1に所在し、立地は標高39m～37mの丘陵頂部平坦面です。

調査は、赤崎地区農道新設に伴って、昭和59年11月26日から昭和60年3月18日まで実施しました。

調査によって中尾遺跡には弥生時代後期（今から1800年前）の墳墓と室町時代ころの墓（以下中世墓とする）が営まれていることが分かりました。

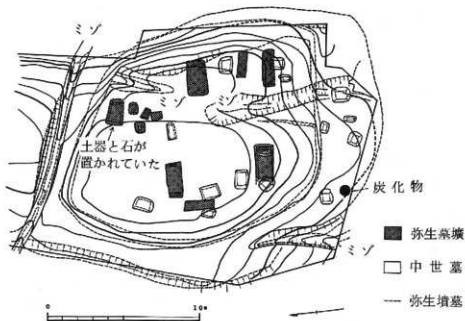
弥生墳墓は約11m×17mの方形とも円形ともいえない、丘陵を削り出して造ったものです。この墳丘上には明確なもので6つ以上の遺骸を埋める所（墓壙）がありました。これらの墓壙は穴を掘り中に板で棺を組むものです。特にこの墓壙の一つに遺骸を埋葬した後に行われた祭りに使用されたと考えられる土器と石が置かれていること、また、生前愛用したものを、遺骸に添えて埋葬すること（副葬）がなく、そのため、墓壙の中からはなにも見つけられなかったこと、この2点は山陰地方の弥生墳墓の特徴です。この後、安来においては弥生時代の終わりに四隅が突出する墳墓が造られ、古墳時代初めに一辺60mの大方墳（造山1号墳など）が造られます。



中尾遺跡位置図（城山の地形図）

中尾遺跡のもう一つの特徴に中世墓があります。115cm×88cmの長方形のものを最大に14基を確認しました。これらの墓には土葬と火葬があります。これらの墓には、五輪塔（「方・円・三角・団形の五輪よりなる塔形で、地・水・火・風・空の五大をあらわすという。密教において創始され、藤原時代ころ

から用いられるようになった。)や宝篋印塔(「『宝篋印陀羅尼經』
 によれば、この經を安置する塔は、三世一切の諸仏の全身舍利を奉藏
 するものとみなされるので、その趣旨によって作った塔を宝篋印塔と
 いう。)が置かれていました。副葬品はなにもなく、6基の墓より人
 骨が検出されました。安来の数少ない中世の資料として貴重なもので
 す。

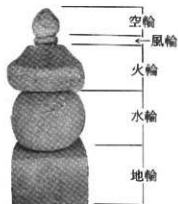


中尾遺跡平面図



宝篋印塔

清水寺御三昧(南北町時代)



五輪塔

清水寺(南北町時代)

安来の原始・古代略年表

西 暦	時代	日 本 の 事 項	安 来 市 の 原 始 ・ 古 代
紀元前 20000年	先 土 器	狩 猟 生 活 打 製 石 器	意多岐神社境内（飯生町）より尖頭器が出土している
紀元前 10000年	縄 文	狩猟漁労・採集生活 弓矢・縄文土器の使用	5500年 黒井田町和田に縄文人の生活が始まる 神田遺跡（後期～晩期）
紀元前 300年 紀元0年	弥 生	稲作農耕生活 金属器・弥生土器の使用 小国家（ヤマトイ国など）の 成立 鉄器の普及	沢町に農耕技術を持った弥生人の生活が始まる。 沢遺跡・港戸遺跡（沢町） 能義平野の開拓が進む 宮神坊遺跡（烏木町） 埋葬儀礼の確立 ●中尾墳墓（月坂町） 切川土墳墓（切川町）九重土墳墓（九重町） 古備地方（岡山県）との交流 鍵尾遺跡（沢町）長曾土墳墓群（黒井田町） 円隅突出型墳墓という規格性の強い墓がつくられる。 仲仙寺8・9・10号墓 安養寺1・3号墓 宮山4号墓など（西赤江町）
300年 400年 500年	古 墳	前方後円墳の出現 （各国の首長の墓が前方後円 墳という形式の墓に統一さ れていく） 大仙古墳（仁徳陵）・菅田古 墳（応仁陵）の築造 朝鮮からの新しい技術の伝来 により須恵器生産の開始 群集墳の出現（古墳をつくる 人の階層が広がる） 仏 教 伝 来	畿内政権との政治的な関係をもったことにより大方墳 が荒島町を中心に造られる 造山1・3号墳（荒島町） 大成古墳（荒島町） 前方後方（円）墳が造られるようになる 前方後方墳……宮山1号墳（西赤江町） 前方後円墳……梅谷古墳（矢田町） 尾壳塚古墳（黒井田町） 門生町高畑に山陰最古の須恵器窯が成立 （新技術の伝来） 石棺式石室が飯梨川西岸地域に造られる 岩舟古墳（岩舟町）塩津神社古墳（久白町） 横穴が多数造られる 黒鳥横穴群（黒井田町）矢田横穴群（矢田町）
646年 700年	飛 鳥	大化の薄葬令（古墳の衰退） 僧道照が火葬にされる	教吳寺の建立（野方町）仏教が山陰に伝わる
710年	奈	平城宮に遷都	舎人郷正倉（沢町）
741年	良	国分寺・国分尼寺造営の詔が 出る	733年 出雲国風土記完成 火葬が安来にも伝わる……小久白遺跡（久白町）
794年	平安	平安宮に遷都	